

科目区分	専門分野	履修学年	2 年前期	単位数	1	時間数	30
科目名	看護過程Ⅱ			担当教員	専任教員		
使用テキスト	1) ゴードン博士の看護診断アセスメント指針 よくわかる機能的健康パターン						
テキスト以外の教材・参考書等	1) メディカ出版 ②基礎看護学 基礎看護技術Ⅰ 2) 医学書院 系統看護学講座 基礎看護学② 基礎看護学技術Ⅰ 3) 照林社 実習記録の書き方がわかる看護過程展開ガイド ヘンダーソン、ゴードン、NANDAの枠組みによる 看護学生必修シリーズ 4) 日本看護協会出版会 ヴァージニア・ヘンダーソン 看護の基本となるもの						
授業の概要及び到達目標							
<p><u>授業の概要</u></p> <p>看護過程Ⅱは、1年時に学んだ看護過程Ⅰを基盤に、事例を用いた看護過程の実際を学ぶ。</p> <p>対象の看護実践を行うためには、人体の構造と機能、疾病の成り立ちと促進で学んだ基礎的知識、科学的根拠に基づいた看護過程の知識が必要になる。看護過程の実際を学ぶことで、基礎看護学実習での看護実践、各領域での方法論につなげる。事例をもとに問題解決思考に基づいた看護過程の実践が学べるようにする。</p> <p><u>到達目標</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報の整理とアセスメントができる。</li> <li>2. アセスメントから対象の看護問題が抽出できる。</li> <li>3. アセスメントを踏まえ、全体像を導くことができる。</li> <li>4. 看護問題を明らかにし、優先順位の決定ができる。</li> <li>5. 看護問題を解決するための、看護計画を立案することができる。</li> </ol>							
評価方法	筆記試験 看護過程の記録（内容と提出状況）						
備考	1年時の看護過程Ⅰの講義資料持参すること。 事例に対する疾患・看護の事前学習をすること。 記録の提出を求めながら講義をすすめる。期限内に内容をまとめ提出すること。  関連科目：論理学, 教育学, 人体の構造と機能, 疾病の成り立ちと回復の促進, 看護過程Ⅰ, 基礎看護学実習						

回数	授業計画 学習内容	備考
1	事例を用いた看護過程の実際 事例説明、疾患の病態関連図 データベース記載	
2	情報の整理 ゴードンの枠組みを使った情報の整理とアセスメント	データベース提出
3		
4		
5		
6		
7	全体像の記載	
8		
9		
10		
11		
12		
13	評価 SOAP、計画の再査定	看護計画の提出
14		
15	終講試験 まとめ解説 レポート提出	